

市町村による事例報告

宮城県富谷町保健福祉課長補佐 安積 春美 氏

地域の力を活かすユニットケア

宮城県富谷町

町の概要

富谷町は、宮城県のほぼ中央に位置し、町の南側は、仙台と接しています。北側は、黒川平野の耕地に面しています。南北に国道4号、東北自動車道が通っています。

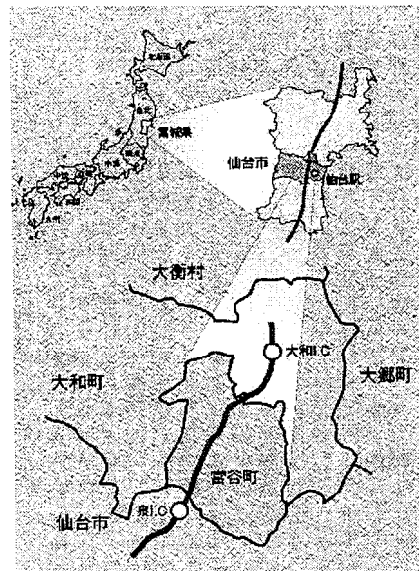
町の面積 49.13km²

総人口 40,039人

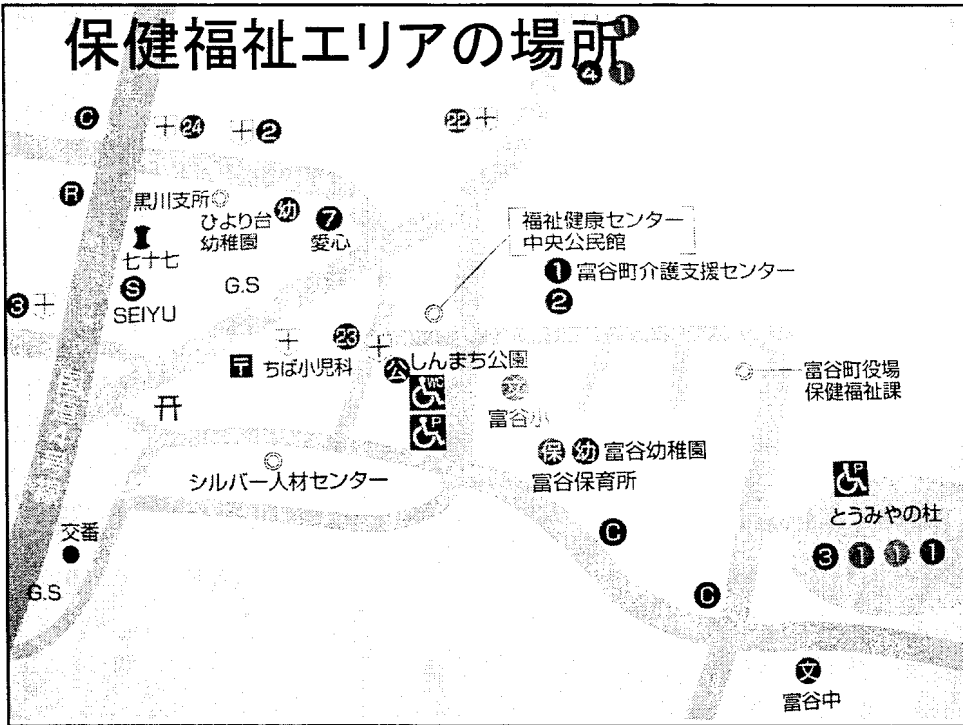
住民平均年齢 36.5歳

一世帯あたりの世帯員数 3.13人／世帯

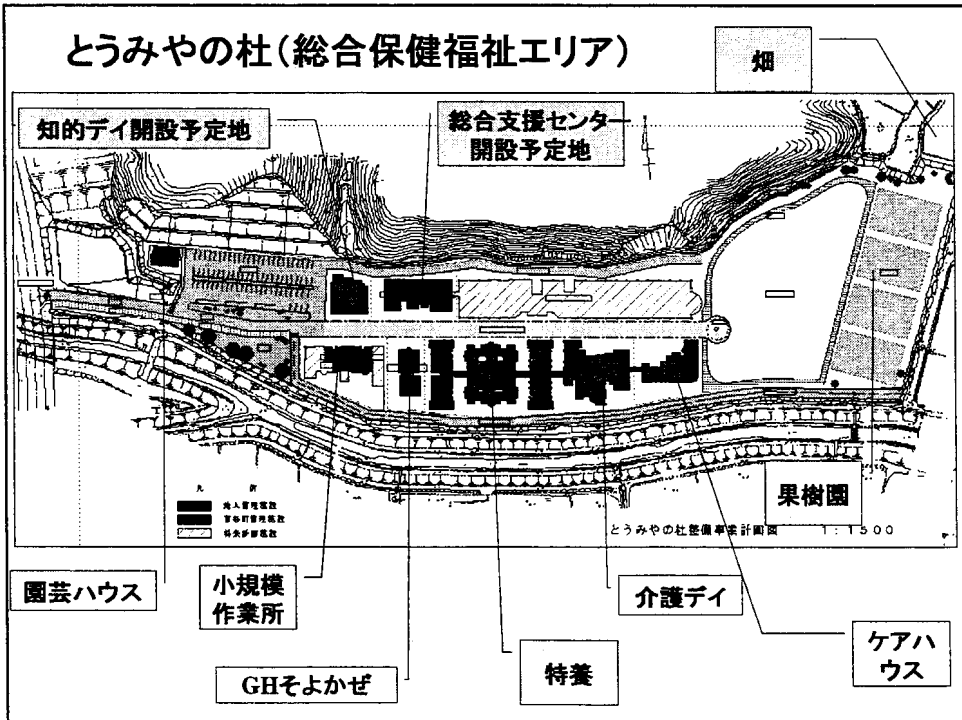
町制施行 41年目



保健福祉エリアの場所



とうみやの杜 (総合保健福祉エリア)



高齢者状況

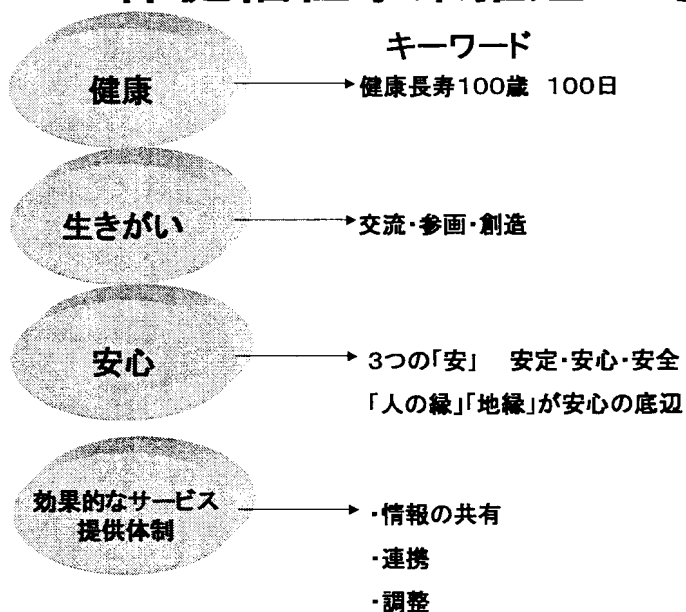
(平成16年3月31日現在)

高齢者状況	総人口	総世帯数	高齢者人口	高齢化率	独居世帯
	40,039	12,772	4,201	10.49%	197

介護認定状況		認定者数	認定率	居宅サービス利用者	施設サービス利用者
	1号被保	483	11.5%	286	106
	2号被保	50	—	30	6
	計	533		316	112

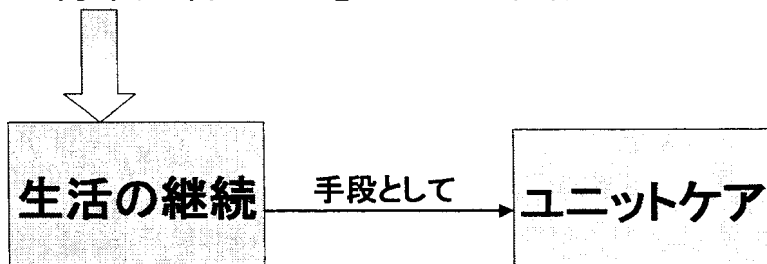
- 町内福祉施設
- ・介護老人福祉施設 1ヶ所(定員50. ショート10)
 - ・介護老人保健施設 2ヶ所(定員計210)
 - ・ケアハウス 1ヶ所(20人)
 - ・グループホーム 1ヶ所
 - ・老人福祉センター(特A型) 1ヶ所
 - ・老人介護支援センター 1ヶ所
- (精神・知的小規模作業所 各1箇所)

保健福祉事業推進の考え方



特別養護老人ホームに対する 町民の期待と町の想い

- ・ 町内初の特養で「安心の砦」として期待が大。
- ・ 親が入居しても子供が引け目を感じない施設
- ・ 「将来入居したい」と思える施設



生活の継続とは具体的に・・・

- ・ 自宅で出来たことを継続できる(趣味・生活リズム)
- ・ 自分の理解者がいる(気持ちに共感してくれる人がいる。)
- ・ 自分で出来ないことを手助けしてくれる人がいる。
- ・ 友人、知人等の人間関係の継続
- ・ 暮らしの中で自分の役割がある
- ・ 安らげる空間がある。

⋮

杜の風誕生までの歩み

- ・平成7年度～とうみやの杜整備事業用地取得
- ・平成10年度～保健福祉計画策定→整備方針決定
- ・平成11年度～老人福祉施設設置運営法人の決定
→“生活”を考える姿勢を重視し
「プロポーザブル方式」で決定

法人と町の勉強会

宮城県の指導支援
(県のスタンダード)

平成12年度(開所1年前)

・地域福祉フォーラム開催

※福祉の原点

・個人個人が最後の瞬間まで輝いて
いられる様に支えること。

↓

入居者+家族・地域・行政
が三位一体で進める
事が必要

「とうみやの杜」に対する町民の理解

○福祉の変化

- ・措置から生活支援
- ・「快互朗人福祉」

○自分らしい生き方の実践

地域に入っていける→自分が豊かになる
地域を取り込む→周りが変わる

・施設の名称募集

福祉の新しい「風」……「風」シリーズ

↓

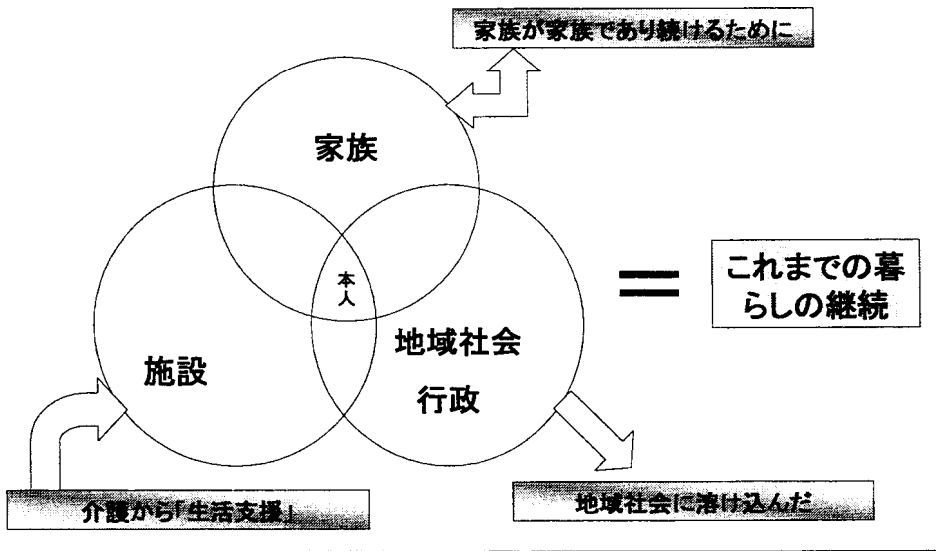
「杜の風」・「みどりの風」・「そよ風」
(特養) (ケアハウス) (GH)

・平成13年6月

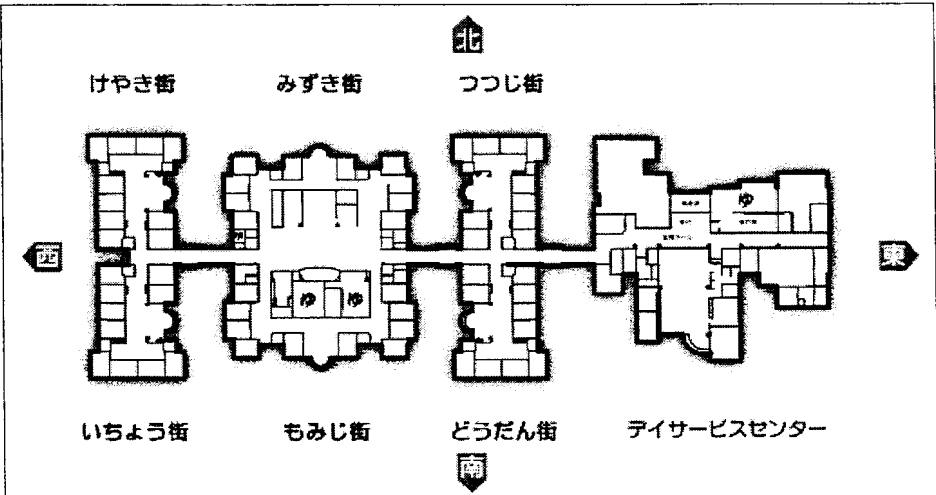
宮城県内初 完全個室

特別養護老人ホーム 杜の風OPEN

法人とつくりあげた杜の風の基本的姿勢



・ユニット構造



「杜の風」は、介護から「生活支援」へ、地域社会に溶け込んだ、家族が家族であり続けるために、これまでの暮らしの継続を基本姿勢とする。

町の現在の取り組み

①地域ネットワーク構築

～地域との橋渡し役として「民生委員」による支援～

☆ユニットごとの民生委員担当制

☆基本ルール

・催し物は企画段階より

・自立(自律)を妨げないお手伝い(聞き役、見守り役)出来ること出来ないことをはっきり示す。

②とうみやの社内施設交流

小規模作業所

・作業所での訓練から社の風職員へ

・社の風ホールを使った作業所絵画展

・季節行事やアートセラピー等の共催

園芸ハウス

近所の高齢者と花や野菜づくりを通しての交流

畑・果樹園
メインスクウェア

収穫祭

③町内会組織・学校と仲良し関係のお手伝い

・町広報等の手渡し配布

・夏祭りの共催(ポスターは中学生協力)

④地域福祉フォーラムの共催

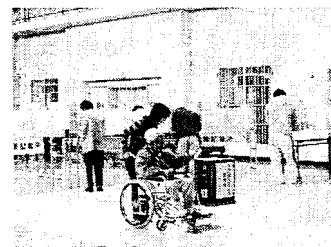
いろいろな立場から地域福祉を
考え互いに理解しあう学びの場



⑤町敬老会・選挙投票・交通安全運動


・地域の高齢者と同様に・・・

⑥高齢者配食サービスの委託



今後に向けて

- 町民の“福祉”(施設ケア)を見る目を養う→社の風を見守り育てる。
- ケア担当者支援……………→ケアマネ・ケアスタッフ定例会の充実
- 情報の共有……………→同じ目線で意見が言い合える
- 地域と地続きの社の風…→特別の場所から誰でも訪れることのできる施設へ

- 
- 社の風は地域の社会資源を活用
(シルバー人材センター等)
 - 地域は施設を社会資源として捉える
(生活の場・遊び場・くつろぎ場所)
(施設) (おもちゃ美術館) (カフェ)



「地域のかを活かすユニットケア」

最後に実際の生活の様子をご覧ください